



Environment Nishinomiya

chapter 1

西宮市の目指す環境

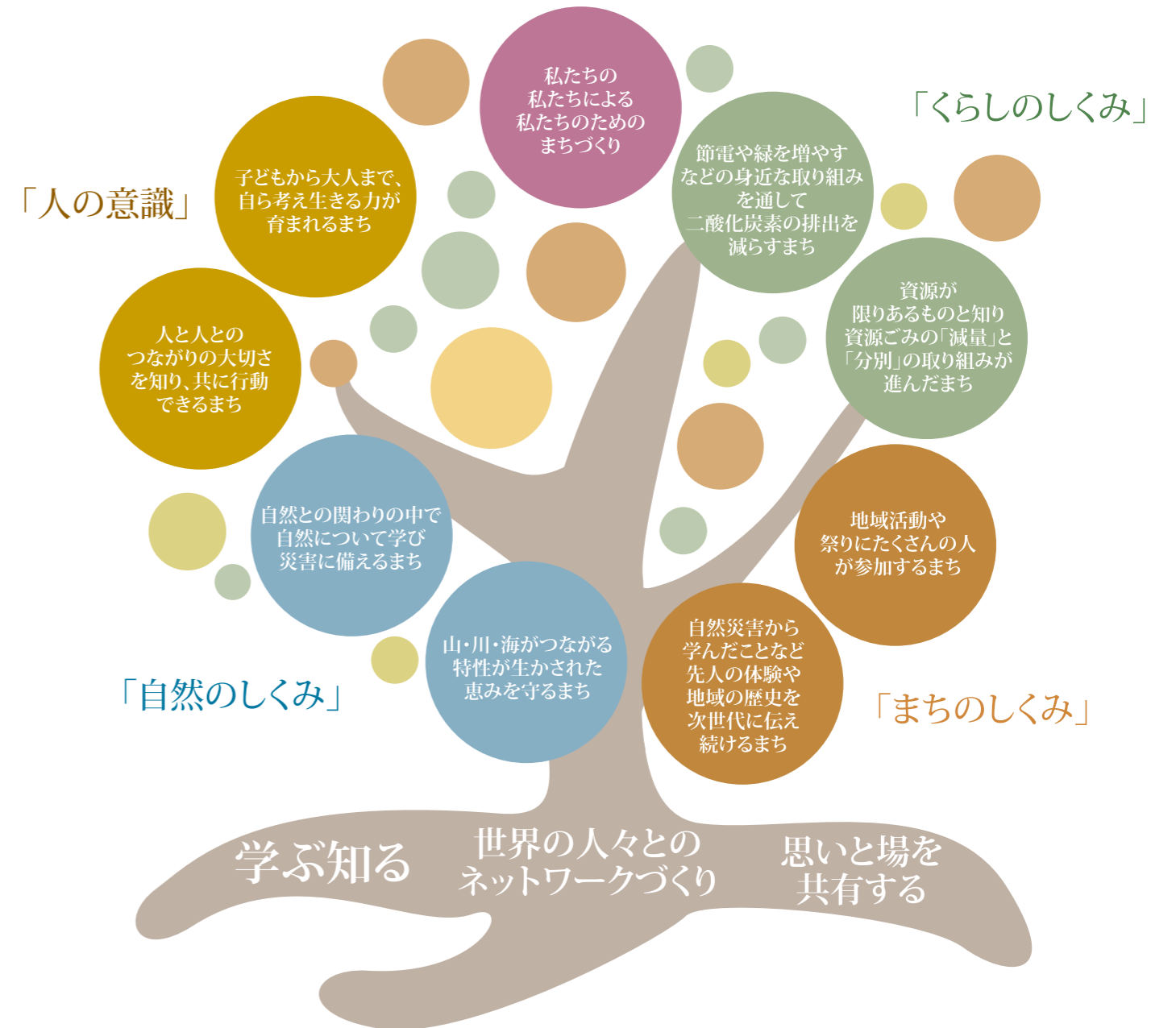


上の花：夙川舞桜
撮影地：夙川

1. 望ましい環境像

本計画は、環境学習都市宣言の理念をもとに策定された前計画の基本的な考え方を引き継ぎ、「望ましい環境像」を次のとおり設定します。

『人を育み、人が育む 環境学習都市・にしのみや』
～共生と循環のところで次代につなぐ 山のみどりとおおい海～



本計画の策定に向けて開催したワークショップでは、市民・事業者・行政が共に集い、環境を通したまちづくりへの思いを互いに語りあいました。上の木のイラストは、そこでいただいたご意見をもとに作成したものです。

地域活動に携わる人、事業を通して環境活動を実践する人、環境学習プログラムを企画する学生、行政職員、すべての人の思いが望ましい環境像へ向けての原動力となります。

2. まちづくりの目標

計画の望ましい環境像の実現に向けて、環境学習都市宣言の5つの行動憲章を基本目標とします。

学びあい

私たちは、自然のすばらしさを体験し、歴史、文化や産業と環境との関わりを学びあい、環境に配慮した行動を実践できる市民として育ちます。

参画・協働

私たちは、市民・事業者・行政・各種団体・NPOなどのパートナーシップの精神に基づいて、地域社会に根づいた環境活動を進めます。

循環

私たちは、暮らしと社会を見直し、資源やエネルギーを大切にしたい循環型都市を築きます。

共生

私たちは、健康で文化的な暮らしの中で、人と自然、人と人が共生する、公正で平和な社会を実現します。

ネットワーク

私たちは、すべての生物が共存できる豊かな地球環境を次世代に引き継ぐため、環境学習を通じ、世界の様々な地域の人々とのネットワークづくりを行います。

3. 環境目標と行動目標

基本目標を実現するために、4つの環境目標と3つの行動目標を掲げます。

「ゼロカーボン」「資源循環」「生物多様性」「安全・快適」をそれぞれ分野別に体系的に施策を進めるための環境目標として設定します。

ただし、特定の環境分野に関する課題を直接的に解決するためではなく、それぞれの施策が複数の環境課題を解決していくことを意識して取り組むことも重要です。

国が2023年6月9日に閣議決定した「令和5年版 環境白

書・循環型社会白書・生物多様性白書」では、炭素中立(カーボンニュートラル)・循環経済(サーキュラーエコノミー)・自然再興(ネイチャーポジティブ)の同時達成の実現の重要性や、気候変動と生物多様性などの環境課題の相互関連性を指摘しています。

こうしたことから、本市が環境学習都市宣言を行ったことを踏まえ、環境に関するすべての分野に共通し、分野横断的に4つの環境目標を達成するため「学びあい」「参画・協働」「国際交流・貢献」の3つを行動目標として設定します。

【環境目標】

1. ゼロカーボン 二酸化炭素排出量 実質ゼロのまちへ

省エネルギーの促進及び再生可能エネルギーの最大限の導入など、地球温暖化対策に取り組み、「2050年ゼロカーボンシティにしのみや」の実現に向けた取り組みを進めます。

2. 資源循環 ごみを減らし、資源を 有効活用するまちへ

循環型社会の構築に向けて、2R[※]と分別・リサイクルの推進により、資源を有効活用し、ごみを少なくする取り組みを進めます。

※リデュース(発生抑制)、リユース(再利用)

3. 生物多様性 生き物のつながりが 豊かな恵みを育むまちへ

あらゆる主体と連携し、まち、山、川・池沼、海の自然環境を守り、生物多様性を高めるための取り組みを進めます。

4. 安全・快適 安全・快適な生活環境を 暮らしの中で築くまちへ

良好な大気・水質・土壌などを次世代に引き継ぎ、人や環境にやさしい安全で快適な社会の実現に向けた取り組みを進めます。

【行動目標】

1. 学びあい すべての人が環境に ついて学びあうまちへ

すべての人が、生涯にわたり環境について学びあう社会の仕組みをつくり、一人ひとりの環境力を高めます。

2. 参画・協働 参画と協働により 環境活動を進めるまちへ

市民・事業者・行政などの各主体、各世代の自律と協働、参画により地域力を高め、環境活動を進めます。

3. 国際交流・貢献 世界の人々と協力し、より良い地球 環境を次世代へ引き継ぐまちへ

国際的視野をもち、世界の人々と協力して、より良い地球環境を未来に残すことに貢献します。

